



©Yuki Asada

明日への希望を見いだす毛糸の髪飾り

細く長い鍵針に、スルツ、スルツと、カラフルな毛糸が吸い込まれていく。じっくり時間をかけて出来上がったのは、かわいらしい髪飾り“シュシュ”だ。

鍵針を握るのは、スリランカ最大の都市、コロンボ郊外にあるメッセワナ女子更生施設の入所者たち。その手つきはどこかぎこちなく、編んではほどき、編んではほどきの繰り返し。それもそのはず、皆、鍵編みを始めてわずか数カ月なのだ。

このシュシュづくりは、青年海外協力隊の石垣小百合さんの提案で始まった職業訓練プログラム。昨年11月より、軽犯罪者や身寄りのない入所者を対象に行っている。「彼女たちは何も

やることがなく、一日中手持ちぶさたでした。毎日前向きに過ごせるよう、何か一緒にできればと思ったんです」。施設内に毛糸がたくさん余っているのを知り、鍵編みのシュシュづくりを思い付いた。

「ある日一人の子が、手にいっぱいの小石を持って教室に来ました。何をのするかと思って見ていたら、一目編むごとに、一つずつ、石を動かしているんです。数を数えられない彼女なりに考えた方法でした」。これまで、誰からも必要とされてこなかった女性たち。“自分にもできる”という自信を得て、今では見違えるように、生き生きと輝いている。

「いずれは外で販売して、彼女たちが収入を得られるようにしたい」。石垣さんの地道な取り組みは、施設に明日への希望の光をもたらしている。



石垣さんと鍵編みに取り組む入所者たち

★毛糸の髪飾りを5人の方にプレゼント!
詳細は38ページへ→

